

26日 火曜

箴言

29:1 叱責されても、なお、うなじを固くする者は、突然打ち砕かれて、癒やされることがない。

29:2 正しい人が増えると、民は喜び、悪しき者が治めると、民はうめく。

29:3 知恵を愛する人は、その父を喜ばせ、遊女と交わる者は、財産を減ぼす。

29:4 正義によって王は国を建てる。重税を取る者は国を壊す。

29:5 隣人にへつらう者は、自分の足もとに網を張る。

29:6 悪人は背きを犯して自分に罠をかける。正しい人は声をあげて喜び歌う。

29:7 正しい人は弱い者のためのさばきを知っている。悪しき者はそのような知識をわきまえない。

29:8 嘲る者たちは町を騒がし、知恵のある人たちは怒りを鎮める。

29:9 知恵のある人が愚か者を訴えて争うと、愚か者は怒ってあざ笑い、安まることがない。

29:10 血に飢えた者たちは誠実な人を憎み、心の直ぐな人のいのちを狙う。

29:11 愚かな者は感情のすべてをぶちまけ、知恵のある人はそれを内に収める。

29:12 支配者が偽りのことばに聞き入るなら、従者たちもみな悪しき者になる。

29:13 貧しい者と抑圧する者は出会う。

【主】は、この両者の目に光を与えられる。

29:14 真実をもって弱い者をさばく王、その王座はとこしえまでも堅く立つ。

「叱責される」と嫌な気がして、その内容や自分の非を考えるよりも、責められたことの恨みが心に残り易いものです。しかし、それで「うなじを堅



く」することは自分のためになりません。つまりかたくなになってはなりません。むしろ感謝して、自分を変えて成長できるなら、そこには大きな恵があります。

人をあてにして、「隣人にへつらう者」すなわち機嫌をとるようなことをすれば、自分の生き方が歪んでいきます。正しく歩めなくなり、自分で罠の網にかかってしまいます。

「感情のすべてをぶちまける」ようにして、怒りなどをそのままに出してしまうことは、愚かであるということです。その結果は失敗であり、信頼を失うでしょう。

「貧しい者と抑圧する者」とは、ぜんぜん別の人生を歩んでいるように感じますが、実は紙一重です。主は両方に平等に日の光を与えてくださいます。両者の幸いは同じなのです。主の視点によって人生を見ましよう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

